

平成28年度 安全推進講習会



Player Welfare
Putting players first

(公財) 日本ラグビーフットボール協会
安全対策委員会

I 部 コーチング講習

1. 講習の目的
2. W杯の結果を受けた環境の変化と
今指導者がすべきこと
3. 重症事故統計
4. 実践例の紹介
5. RWC2015日本代表のタックルの考え方
6. まとめ

1. 講習の目的

RWC2019ホストユニオンとして指導者に安全対策の徹底を図るとともに浸透方法について情報を共有する。

数字

以下の数字の意味は？

Q1. 16,304人→25,164人

Q2. 17時間44分(10/13-16)

Q3. 2500万人(19.6%)

2. RWC2015の結果を受けたラグビーを取り巻く環境の変化と今指導者がすべきこと (ワークショップ 1)

以下の2点について話し合ってください。

1. RWC2015の結果を受けてラグビーを取り巻く環境は変化したでしょうか？

2. またその中で今指導者がすべきことは何でしょうか？

ワークショップで提出された意見

テーマ1:

テーマ2:

3. 重症事故発生状況

○JRFUH27年重症事故報告 13件

部位：頸部7件、頭部2件、その他4件

機転：タックルして6件、タックルされて2件、衝突2件

スクラム1件、不明2件

種別：高校・クラブ各4件、社会人・中学各2件、大学1件

○文部科学省 中学・高校運動部

発生数：柔道(50)、野球(35)、バスケットボール(33)

ラグビー(31)

発生頻度：自転車(29.29)、ボクシング(18.13)

ラグビー(7.30)、柔道(4.81)

「学校における体育活動中の事故防止について(平成24年7月)」より

4. 実践例の紹介 (ワークショップ 2)

昨年度の各チーム内で実施した安全対策について話し合ってください。

ワークショップで提出された事例

事例:

チームの安全管理体制

ラグビー外傷・障害対応マニュアルより

コ ー チ

- 1) チームの目標
- 2) 練習計画の作成
- 3) 安全対策責任者の選定
- 4) チーム規則の作成

健康管理スタッフ

- 1) 周辺医療環境の把握
- 2) メディカルチェック計画
- 3) 選手のコンディション管理
- 4) チームドクターとの連携

選 手

- 1) 健康管理（自己管理）
- 2) トレーニング
- 3) 用具管理
- 4) ラグビースピリット
- 5) スキルの向上

安全対策資料

ガイドライン・通達

<https://www.rugby-japan.jp/RugbyFamilyGuide/shidousya.html>

傷害報告・重症事故報告・傷害見舞金制度

<https://www.rugby-japan.jp/future/documents/>

安全対策資料・教材

<http://www.jrfu-coach.com/#!about1/c216q>

各種コーチング資料

<http://www.jrfu-coach.com/>

5. 日本代表タックルの考え方



平成26年度資料 ヘッドダウン

×



○



■日本人選手のタックルの課題

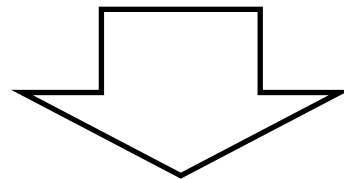
●ポジショニング時の姿勢とアプローチ

姿勢が低過ぎる

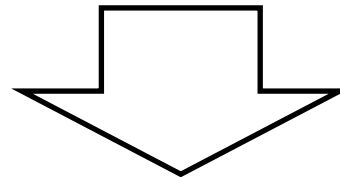
⇒視野が狭くなっている

⇒相手の動きに対応する動きに制限がある

スピードで追いつけない／ステップに対応できない

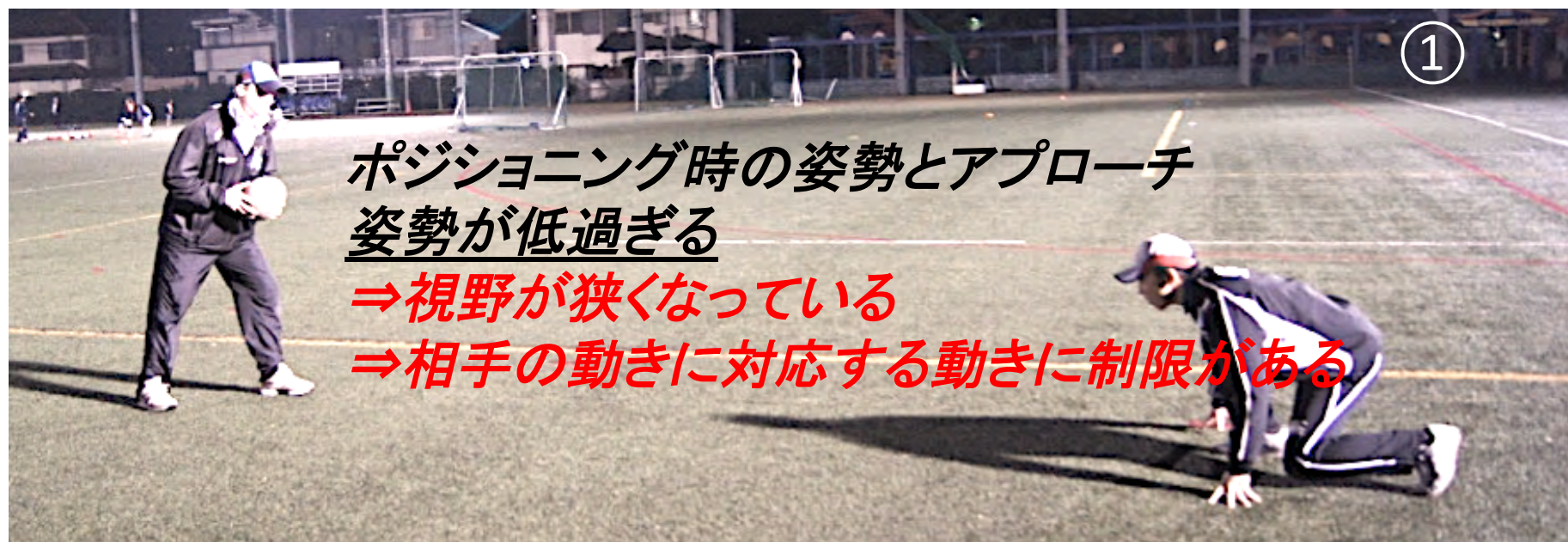


飛び込んでタックル



強くコミットできない／ハンドオフでかわされる

■日本人選手のタックルの課題



スピードで追いつけない
ステップに対応できない



ヘッドダウンして
飛び込んでタックル

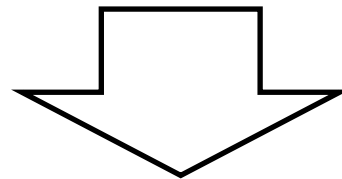
■日本代表の課題改善への考え

●ポジショニング時の姿勢とアプローチ

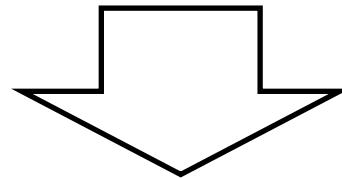
⇒視野を確保できる姿勢

⇒動きに制限のない姿勢

スピードでの勝負に負けない／ステップに対応する



直前でディップ(沈む)／ディップのスピード
* JAPAN「Down Speed」



強くコミットする

■日本代表の課題改善への考え方



スピードでの勝負に負けない
ステップに対応する



直前でディップ(沈む)
ディップ動作のスピード強化



強くコミットする
※タックル後は起き上がってボールゲット



ロータックルはラグビーのゲームの目的ではなく、相手の攻撃の前進を防ぐための一つの手段です。また、ロータックルは、様々なタックルスキルの中の一つに過ぎません。

**ミニ・ジュニアの年代では、個人の身体的、精神的特徴を踏まえて、安全を第一に段階的に正しい動作でのサイドタックルの指導をして下さい。
ロータックルは、筋力が伴わないプレーヤーに行わせるとヘッドダウンする危険性があります。**

6. まとめ

○ラグビーを国内に普及させて
RWC2019を成功させましょう。

○そのためにも日頃の安全対策
が重要であることを忘れないでく
ださい。

お願い

○各チーム内で安全推進講習の内容を伝達していただき、「安全推進講習会各チーム伝達報告書」を必ず提出してください。

○来年度の安全推進講習では、今年度の成果をもとに発展させたいと思います。